

「これまでの6年間と、
私がこれから歩いていこう未来の姿を
見てもらえたらいいと思います」

YouTubeで名曲カバーを配信し、瞬間に注目を集めたシンガーソングライター・Uru(うる)。その人の心を癒す歌声はデビュー以降、数々の映画・ドラマに起用されてきたが、最新曲『それを愛と呼ぶなら』もドラマ日曜劇場【マイファミリー】の主題歌として物語を切なくも温かく彩った。デビュー6周年記念日となる6月15日にはUru初の短編集『セレナーデ』も発表。新たな分野でも才能を発揮する彼女は、自身最大規模となるホールツアーをスタートさせる。



—6月にドラマ日曜劇場【マイファミリー】主題歌の『それを愛と呼ぶなら』がリリースされました。

「ドラマ制作サイドの皆さんから『前向きに背中を押してくれる曲』というリクエストをいただいたので、脚本を読んだ上で、聴いてくださった方が前向きな気持ちになれるような曲を目指しました。一度失敗したとしてもそれをひとつの経験として捉え、後悔することなく行くんだぞっていう意味を込めたつもりです。」

—歌い出しの〈掛け違えていたボタン／一つずつ／下から順に外してもう一度重ねていく〉という歌詞がとてもリアルでハッとしました。

「私も普段の生活の中でボタンを掛け違えることがあるんですけど、そういうときって急いでいたり、違うことを考えていたりすることが多くて。それをドラマの脚本と重ねて、自分の大切なものや初心を忘れてしまったのか、どこかにしまい込んでしまったのか、これまでないがしろにしてきたものに対する気付きを表現できればと思って書きました。」

—この歌は再生・再起の歌ということですが、Uruさんの人生でも挫折のようなものはあったんですか？

「私、以前音楽をやめようと思ったことがあったんです。自分ではやりたいと思っているのにもう一歩足を踏み出せないというか、オーディションに合格したのに次の審査に行くのをやめたり。あとYouTubeをやっているときも、あまりにも自分が思うように歌えなさすぎて1回休んだことがあって。そのときは周りのモノに当たったりもしましたね……」。

—そうした葛藤の記憶がこの歌のベースになっているんですね。一方、カップリングの『セレナーデ』はこの曲を元にした物語が短編集に収録されています。

「この曲は恋愛の曲ですけど、究極の片想いというか。ストレートに想いを伝えられない弊害があって、それを聞き手に想像してもらえるような内容にしたかったんです。『何がこの2人の間にあるんだろう？』って」。

—切ない歌いぶりが印象的です。おなじみのカバーはマカロニえんぴつの『なんでもないよ、』。

「これは私のマネージャーさんがすごく好きな曲で、聞かせていただいたら私も大好きになってしまっただけで、こういう感じの曲はこれまで歌ったことがなかったので、私が歌ったらどんなふうになるんだろうと思って挑戦してみました。」

—デビューして6年が過ぎましたが、歌に対する意識などは変わりましたか？

「レコーディングをはじめたばかりの頃は100テイク近く録っていましたが、今はそれが20テイクくらいに収められるようになりました。これまでは100回くらい歌わないと歌の世界に入れなかったんです。歌いながら曲のイメージをつかんだり、今回のように元のストーリーがある場合はその物語を思い浮かべながら歌ったり。それが少し早くできるようになってきた気がします。」

—そこまで物語の世界に入り込んで歌うから、歌がストーリーに寄り添うのかもしれないですね。7月からはツアー【again】がはじまります。これは改めて「もう1回やるぞ！」っていう感覚なんですか？

「まったくその通りで。去年11月、ずっと目標にしてきた国際フォーラムでライブを開催できたんです。なので今は1年目のときのようなまっさらな状態で、再び新しくスタートしたいという気持ちが強くて。タイトルも【restart】と迷ったんですけど、『もう1回！』という気持ちを優先しました。」

—YouTubeの世界から出てきて、観客を前にしたライブの経験は少なかったと思います。ライブに対してはどう向き合っているのでしょうか？

「これまでお客さんにはYouTubeの中で画面を通して見てもらうことが多くて。だから同じ空間で温度を感じながら歌を歌えるって、『私は本当にアーティストになれたんだ！』って実感できる貴重な機会でもあるんです。」

—観客を前にして歌うことで意識は変わってきましたか？

「YouTubeでカバー動画を更新していたからか、私の歌と映像だけを見てUruのイメージを作っ

くださる聴き手の方が多いような気がして。そうすると皆さんの前に立ったとき、『リアルな私を見てイメージが違ってたらどうしよう？』っていう不安がずっとあったんです。デビュー後数年間はそうした不安があって、自分に対しても加点方式じゃなく減点方式でしか評価できなかったし、なかなかライブも楽しめなかったんです。でも自分自身が楽しめていないとお客さんに歌の感情を伝えることなんてできないな、と思って、『たとえギャップがあったとしても、本当の自分はここにいる私ではない！』と思うようになってからは、だいぶ普通に歌えるようになってきました。でもまだカチカチです(笑)。

—今回はどんなツアーになりそうですか？

「初めて行く土地もたくさんあるので、その場所ならではの雰囲気を感じるのが楽しみです。セットリストも昔の曲から新曲まで入っているので、これまでの6年間と、私がこれから歩いていこう未来の姿を見てもらえたらいいと思います」。

—広島はツアーファイナルです。

「広島はライブでもプライベートでもまだ行ったことがなくて。でも厳島神社は昔からずっと行ってみたい場所なんです。満潮になると鳥居が海に浸かる光景が神秘的だし、神社仏閣が好きなので絶対行きたいと思ってます。あと牡蠣も楽しみにしています！」。

12th Single

「それを愛と呼ぶなら」
out now!!

Book

発売中!!



初の短編集

『セレナーデ』

角川書店 / 1760円(税込)

Uru Tour 2022 「again」

10月29日(土) 広島 JMSアステールプラザ大ホール